

第97回 縮小社会研究会



日時 2026年5月22日 19時～20時30分

場所：オンライン URL: <https://us02web.zoom.us/j/84396811361>

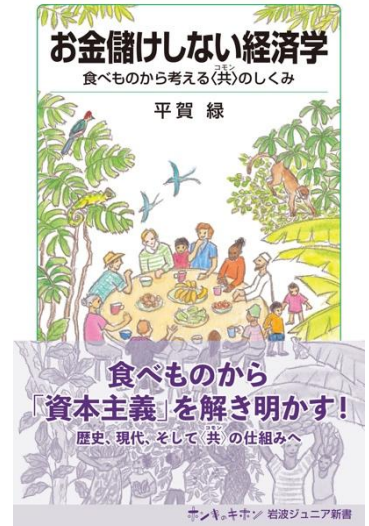
お金儲けしない経済学～縮小社会と経済

講師：平賀緑（京都橘大学経済学部准教授）

イスラエルとアメリカ合衆国による国際法無視のイランへの軍事侵略は、戦後国際秩序を大きく壊そうとしています。と同時に、この戦争を通じて、私たちの生活が、交通機関のみならず、日用品や医療器具、さらに農業・食料の領域まで、化石燃料に依存している状況が多くの人の前に顕在化しつつあります。化石燃料の枯渇という人類の危機について警鐘を鳴らし続け、この課題に対応するべく活動を続けてきた縮小社会研究会にとって、現在の状況はまさに正念場と言えるだろうと思います。

今回の戦争の背景にも、絶えず利潤を追求し、経済効率と生産性をのみ追い求めて、人間の労働を搾取し、自然に負荷をかけ続けてきた資本主義経済のメカニズムが大きく作用しています。すでに何度かお知らせしたように、今年度は、「縮小社会と経済」という視点から連続した形の研究会を企画しています。

その最初の回として、今年4月に『金儲けしない経済学』（岩波ジュニア新書）を出版された平賀緑さんに講演をお願いしています。成長を求めない経済学、コモンズや社会的共通資本という視点の重要性、お金や取引の仕組みなど、経済をめぐる根本問題を「食」などを通じて、わかりやすく考察していただきます。多くの方の参加をお願いします。



講師紹介 京都橘大学 経済学部 准教授、立命館大学 BKC 社系研究機構客員協力研究員

広島出身。1994年に国際基督教大学卒業後、香港中文大学へ留学。香港と日本において新聞社、金融機関、有機農業関連企業などに勤めながら、1997年からは手づくり企画「ジャーニー・トゥ・フォーエバー」共同代表として、食・農・環境問題に取り組む市民活動を企画運営した。2011年に大学院へ移り、ロンドン市立大学修士（食料栄養政策）、京都大学博士（経済学）を取得。食と資本主義の歴史、植物油を中心とした食の政治経済を研究している。国際社会学会 農業食料社会学部会（ISA RC40）東アジア地域代表理事。AM ネット、使い捨て時代を考える会、環境市民、西日本アグロエコロジー協会、ミュニシパリズム京都などの市民活動にも参加。著書に『食べものから学ぶ世界史—人も自然も壊さない経済とは？』（2021年）、『食べものから学ぶ現代社会—私たちが動かす資本主義のカラクリ』（2024年）、『お金儲けしない経済学—食べものから考える〈共〉のしくみ』（2026年、3冊とも岩波ジュニア新書）、『植物油の政治経済学—大豆と油から考える資本主義的食料システム』（昭和堂、2019年）、『A Business History of Soy: Japan's Modernization and the Rise of Soy as a Global Commodity』（Routledge、2025年）など。



参加費：会員は無料、非会員は500円

参加登録：非会員の方は当会（下記）まで氏名、メールアドレス、所属を連絡願います。